



太田川右岸水内川合流点付近

床上浸水対策特別緊急事業 小原地区、今年度中に概成

太田川河川事務所では、平成17年9月の台風14号によって床上浸水および要援護者支援施設（病院、老人ホーム等）の浸水被害が沿川で発生した箇所を中心に、築堤等の改修事業に取り組んでいます。

事業の実施については、再度災害の防止を図るとともに、環境や生態系に十分配慮した整備を計画し、中・上流域の計18か所において、平成19年度より工事を進めております。

写真は小原地区（広島市佐伯区湯来町小原地先Ⅱ浸水家屋4戸）における工事状況です。同地区では、太田川の下流に向かって右岸に総延長約650mの連続堤を設けます。

平成20年11月から本格的に工事に着手しており、平成21年度中にほぼ完成する予定です。

大芝・祇園水門上流の堆積土砂を掘削

太田川下流部の管理上
きわめて重要なポイント

大芝水門・祇園水門は太田川放水路と旧太田川へ洪水を分派する重要な施設であり、太田川下流部の河川管理を行ううえで分派量の管理はきわめて重要なポイントです。

平成16年～18年の度重なる大出水により水門上流の土砂堆積と植物の繁茂（陸地化）が著しく進行し、洪水時の分派の流量配分を阻害する恐れがあることから、平成19年度より3箇年計画にて緊急的な土砂撤去を実施しています。

一 土砂撤去の範囲は、大芝・祇園水門建設当時の中州がない状態まで。今後は、土砂の堆積範囲や陸地化・樹林化などの変化を定期的に把握するとともに、洪水時の分派量を調査することによって、堆積土砂が洪水時の分派に与える影響を明らかにしていき、効果的かつ効率的な堆積土砂の管理を実施していきます。



武田山2号砂防えん堤工事着々と進む

広島西部山系直轄砂防事業

太田川河川事務所では、平成13年度から広島西部山系における直轄砂防事業に着手し、現在までに完成地区を

武田山2号砂防えん堤は、えん堤本体の長さ \parallel 33m、高さ \parallel 8mのコンクリー

トえん堤です。



含めて21地区で砂防事業に着手していきま

広島市安佐南区の武田山地区において、本地区2基目のえん堤工事（武田山2号砂防えん堤工事）を9月に着手し、本堤部の施工が1月に完了しました。今後、えん堤の前側の保護や流路を施工し、工事の完成をめざします。

平成14年度より工事を進めてきた小瀬川中市堰下流（大竹市元町二丁目）から大竹市新町二丁目までの区間（約1.8km）の「水辺の散策道」が、3月に完成する予定です。

散策道の幅は概ね3mで整備し、車いすでも楽に上り下りできるスロープを3箇所、階段を13箇所設けています。

対岸の和木町側も平成16年度に完成し、日々多くの人々が散策を楽しんでいます。皆さんもぜひ、水辺に親しんでみてください。

現在工事中の約140mも、散策道の土台部分はすでに石で造り終えており、これから散策道造つて、進入路や回転場を撤去し完成します。

すでに完成している散策道は、地域の数多くの人々に利用され、大変喜ばれています。



小瀬川左岸

車椅子用のスロープも設置

大竹・水辺の散策道完成間近

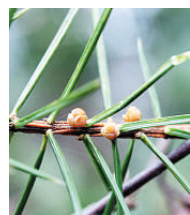
安全な工事のための学習と意見交換

「広島西部山系砂防工事 安全・施工技術研究会」を開催



太田川河川事務所では、管内の砂防えん堤の設計コンサルタンツや施工会社の実務者を対象に、工事の安全対策、作業環境・施工技術の向上を目的として、「広島西部山系砂防工事安全・施工技術研究会」を1月29日、太田川河川事務所3階会議室にて開催しました。当日は約60人が参加し、約4時間にわたって施工業者各社の取り組みの紹介、質疑応答や意見交換を行いました。

「広島西部山系植生図鑑」その3 ネズ



科名:ヒノキ タイプ:常緑小高木

花の時期 4月

実の時期 10～11月

乾燥した尾根のアカマツ林を代表する樹木です。この木が生えているような場所では、昔はマツタケが採れましたが、今では見るができなくなりました。ネズとアカ

マツと和製ブルーベリーのナツハゼは、尾根のアカマツ林で見られる3点セットです。

高さ5～6m、高いものでは10mになる常緑小高木です。小さな葉は短い針のようで、つかむと痛いです。

広島県では別名「ムロ、ムロギ」とも呼ばれており、土地の境界に目印として植えられることもあるそうです。

ホームページに「広島西部山系植生図鑑」を掲載しています

太田川河川事務所

検索

